

## はじめに

平成17年度の職業能力開発技法研究会における民間教育訓練機関への支援の一環として『溶接技能者評価試験実技指導書 A - 2 F 編』を作成するにあたり平成10年度作成の「溶接検定試験受験用マニュアル」を参考にしました。このマニュアルは、当時の編集機器等の関係から写真等を取り入れた電子データとしての不備や、外観試験の判定基準等が改正されたことから、この機会を利用し実技指導書として新たに改訂しました。

必ずしも十分なものとはいえませんが、多くの教育訓練機関で活用していただければ幸いです。

職業能力開発技法研究会(金属加工系) 平成18年3月

今回、溶接検定試験受験用マニュアルの作成にあたり、金属加工系職種を持つ学院の代表が金属加工系分科会の目的も理解しないまま集まり「何をするのか？何をするとよいのか？」を話し合ったが、金属加工系職種であっても2年制、1年制そして金属加工科、構造物鉄工科、板金科、溶接科その中でも普通課程、短期課程と内容は多種多様であり、ある部分で共通点を見いだすことはできるものの科目設定、訓練内容、課程、訓練時間により大きく異なるいわゆる「似て非なる職種」であるため、なかなか意見の集約ができなかった。

しかし、異なった訓練内容でも金属加工系職種として、何か共通する部分はないものかと意見交換をした結果、溶接技術検定試験に関するものはどうなのか？との意見が一致し、それに向け取り組むことになった。

検定試験に関する指導書は、個々の指導員が今までの経験を生かし作成したものを使用したり、あるいは合格率を考え、他学院で合格率が良ければその資料を取り寄せるなど、個人的に行われてきたが、各学院(各個人)とも千差万別であり大筋では共通点はあるが、細部については実に様々であるため「誰が指導しても同じようにできる」マニュアルがあれば、全く同じことができなくても「共通した内容の指示・指導ができる」との思いで試行錯誤もあったが、このマニュアルの作成にあたった。

内容については、まだ不備な点が多くあると思うが、今後さらに使用しやすいように見直しをすると同時に、できれば他の教科についても「使いやすい指導書」の作成、検討を職業能力開発研究室の指導・アドバイスを受け継続したいと考えている。

このマニュアルは、溶接技術検定試験受験のためだけではなく、通常の基本実技の中でも活用していただければ幸いです。

平成10年2月